

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171100104		
法人名	株式会社兵庫福祉保険サービス		
事業所名	グループホーム松風の郷 浦富(1F)		
所在地	鳥取県岩美郡岩美町浦富1418-2		
自己評価作成日	平成27年10月28日	評価結果市町村受理日	平成27年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取県鳥取市湖山町東2丁目164番地		
訪問調査日	平成27年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり、一緒に、楽しく」の経営理念の基、職員と利用者の信頼関係を築いています。大家族のようなアットホームな施設を目指し、行事の際は、家族様に参加して頂くなど、日々利用様と家族様の繋がりを大切に職員一同利用者様との関わりを大切に支援しています。地域交流を図り地域運動会、防災訓練、地域会議など参加し地域の方々との繋がりをもてるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念「ゆっくり、一緒に、楽しく」に加え、さらに質の高いサービスを目指し、グループホーム松風の郷独自の理念を職員全員で新たに作られました。「あせらない、同じ目線、笑いあふれる」という誰にもわかりやすい文言で、常に念頭に置き、日々のサービスに活かしています。また、地域との関わりを積極的に持ち、運営推進委員のメンバーでもある民生委員の方のお力を借りながら、行事に参加したり、日常的に声かけなども行っています。管理者と職員は、会議等以外にも常に話し合い、利用者の立場に立ったサービスの提供ができるように努めている様子がうかがえました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく」理念を元に施設独自に「あせらない、同じ目線で、笑いあふれる」と施設理念を新しく掲げご利用者様のペースに合わせた介護の実施を図っています。	理念は、スタッフ会議等で確認し合い、誰もが地域密着型サービスの意義を理解し、実践していくことができるように努めている。 また事業所の理念に加えて、施設独自の理念を職員全員で作作り、日々のサービスへ活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加し家族や関係機関交流している。運営推進会議を実施し、施設の現状等を伝えています。	運動会や消防訓練等の地域行事に加え、女性の集いや町内の会議等にも積極的に参加している。 事業所で行う納涼祭等の案内を行ったり、散歩時にあいさつをしたり、日常的に交流を行っている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に声掛けし、老人会や地域役員方へ推進委員会へ参加して頂くよう案内しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見を、スタッフ会議で提示、検討し、サービス向上に活かせるよう努めている。	2ヶ月に一度、利用者の作ったおやつ(ぼた餅、団子等)を食べながら、和やかな雰囲気での会議を行い、委員の方からも積極的に意見等をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターが推進しているケア会議に参加し、ホーム内の様子等を報告し、行政の方々と情報交換を行っています。	日頃から市町村担当者とは密に連絡を取り、協力関係を築いている。 相談員の育成研修の一環として見学に来られたり、認知症の対応の仕方等を学びに来られることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束等の排除の為の取り組みに関する研修、マニュアルの見直しを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束をしないケアの具体的な実践例を挙げながら、職員全員が正しく理解し、ケアに取り組めるように努めている。 マニュアルも見直し、わかりやすい文言に変更したり、内外での研修も取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待の防止の為の取り組みに関する研修、マニュアルの見直しを行い虐待の防止に取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に成年後見制度についての研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や解約の際は、不明点等が残らないよう十分に説明及び納得して頂いた上で対応しています。契約・解約後も、不明点等あればお答えできるようお伝えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見をお伺いできる体制をとっています。月に一度実施する運営会議で、職員からの意見提案など、事業主へ報告及び検討・改善等話し合うようにしています。	ご家族の来所時には、積極的に話しかけ、利用者の日々の暮らし等を伝えたり、要望や意見を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会を行い、意見交換が出来る場を設けています。尚、日々の業務の中で、意見・提案があれば、管理者に直接話す体制をとっています。	ミーティング時以外にも、日頃から話をよくするように心がけている。 管理者は、一方的に指示するのではなく、職員の気持ちや考えをくみ取り、話しやすい体制を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職登用による意識改善・資格手当、育休などの整備・処遇改善など制度の活用し環境改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者においては資格要件を満たした者より順次、その他研修については、希望者などに外部研修を受講を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修など管理者も含め職員が同業者と交流を通じてサービスの向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人から、困っていること又は要望等を十分傾聴し、安心と信頼を築いていける体制づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族などからの不安や要望等を十分に傾聴し、サービス計画を作成する中で信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず職員複数名で本人・家族と必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力に応じて、可能な限り声かけにてお手伝いをして頂くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密に図るよう努めており、月に一度、お便りを家族宛送付し、近況を報告を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩など野外に出る機会を多く持ち、日中、施設内を開放いつでも訪れることができるようにしています。	馴染みの美容院や歯医者に行くなど、これまでの縁が途切れないような支援を行っている。 利用者の友達や家族がいつでも気軽に来られるような雰囲気づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活で孤立しないよう声掛けを行い、トラブルの際は、職員が間に入り関係修復に努め、利用者様同士が楽しく過ごして頂けるよう支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、臨機応変に対応しています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちや暮らし方を伺い、希望や意向に沿うよう利用者様本位に検討している。	細かい表情の変化を見逃さず、利用者の思いや希望をくみ取る努力をしている。 状態や様子を見ながら、気分転換に散歩に出たり、積極的に話しかけをするなど、一人ひとりに合った対応を心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のこれまでの生活歴など家族様に伺い、馴染みのあるもの等を入所時に持参して頂き、住みやすい環境となるよう努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の身体状態を把握し、出来る事・出来ない事を見極め、出来ることは本人にして頂き、個々の有する力など現状の把握に努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ずつに担当者を設け、担当者を中心に職員全員現状把握を図り、家族様来所時に要望や意見を伺い、本人の課題について介護計画を作成している。	介護計画書は、少しでも利用者の状態に変化があったり、問題があるときには、すぐに見直し、ご家族の方にも電話や郵送等で速やかに連絡を取っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の行動や言葉の中から個々のケース記録をもとに、気づきや変化をスタッフが情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に情報を伝え、利用者のニーズに合わせた、柔軟な支援に取り組んでいます。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他の協力を得ながら、地域でより良く暮らしていけるよう連携をとりながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診をして頂き、異常の際は医師・家族・職員で連絡を取り合い適切な医療が受けられる様支援しています。	家族の意向や利用者の症状に合わせて、かかりつけ医への受診も可能だが、基本は連携している医師に往診をしていただいている。受診結果は、速やかに家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に情報の共有化を図り個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際、医師・看護師と入院の情報を交換しているほか医療相談室と連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時重度化や終末期のあり方について家族様に説明を行い、早い段階で重度化や終末期の意思確認書の説明を行い同意を得ています。	家族の要望に添い、できるだけ終末期に向けたケアを行っているが、基本的に看取りは行っていない。 職員が不安にならないよう、終末期の在り方についての話し合いも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成してい、職員全員に突発的 事故への応急対応がスムーズに出来るよう、実践を交えた訓練を行い実践力を身に付けるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っていますが、夜間避難など不安もあり地域の方に避難訓練など案内を出し協力して頂けるよう努めています。	夜間を想定した訓練も含め、年2回避難訓練を行っている。今後は防寒具等も含めた備蓄も準備される予定である。	建物の構造が複雑なため、近隣の方や消防団の方によく理解していただく必要があると思います。また実際に夜間の訓練を行うなど、的確に利用者を選抜させることを全職員が身につけることが大事です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、十分な声掛けを行い、プライバシーの保護に十分な配慮に努めています。	馴れ馴れしくならないよう、親しい中でも丁寧な言葉で接することができるように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や希望を会話や行動の中から読み取り、本人の意思を伺い自己決定できるように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主体にならない様、ご希望を十分に聞きとり、ご利用者様本位となるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みのある理美容院や移動美容院を利用している。その人らしい身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の能力を把握し、極力ご本人で食事を摂って頂いています。ご協力頂ける方には、盛り付けや、片付けなどを手伝って頂いています。	毎月のメニューは決めているが、利用者の要望によって、変更することが度々ある。手作りの家庭的な食事を提供し、できることは利用者にも手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理士により食事管理を行い、偏らないよう注意しています。嗜好を伺い、状態に合わせた形態にし、水分を十分に確保して頂けるよう、努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人で出来るだけして頂き、出来ない時は介護士による口腔ケアに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、体調変化時にも柔軟に対応できるよう、職員全員で意思疎通を図っています。	浣腸が必要だった方が、便秘体操をして改善されたり、オムツ→パンツと自立につながっている例が多々ある。一人ひとりの状態に合わせてた自立支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足に注意し、食物繊維等提供しています。尚、個々に応じた予防の他、声掛け等を意識的に行い毎日の体操に参加して頂くよう予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意思のもの最低一週間に2回以上の入浴をして頂き。入浴の希望時間に出来るだけ入浴していただけるよう支援しています。体調不良時には清拭にて対応しています。	利用者の希望に添って、いつでも入浴できる体制が整っている。 入浴を嫌がる人にも、無理強いをせず、一緒に入るなど、気持ちよく入浴を楽しんでいただく支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思を尊重するようにしています。基本的に昼食後には午睡して頂き身体を休めて頂くようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方薬の目的や副作用を理解し、服薬漏れのないよう記録を行っており、服薬には飲み込み確認、個々の状況により口腔確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のレベルに差がありますが、個々の出来る事や、喜ばれることを見つけ喜びや楽しみ・気分転換できるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事にはご家族に案内を行い協力して頂けるように努めています。季節の変化を感じて頂けるよう、戸外に出たり買い物へ出かけられるよう支援しています。	近所のスーパーに買い物に行ったり、外食を行うなど、利用者の希望を把握した外出支援を行っている。 日常的にも、天気や状態に合わせて、散歩を楽しむなど行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者に対してもお金の個人所有は少額で、利用者が買い物等を希望された時は、当社にて立替払し、後で家族に請求する取扱いとしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意思を尊重しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様と季節を感じるものを作成したり、飾り付けするように心がけています。共用の空間は整理・整頓に努めて居心地よく過ごせるよう工夫しています。	共用空間は清潔に保たれ、季節感があふれる飾り付けや、利用者の写真等が飾られ、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数で利用できる机・ソファ等を用意し、気軽に利用して頂けるよう促しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様と相談し、使い慣れたもの、お気に入りのお持ち頂き、居心地の良い居室づくりに努めています。	利用者は、和室と洋室を選ぶことができる。自宅から、使い慣れた家具やベッド等が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部、起床から洗面までご自分で持つておられる能力を維持して頂けるよう工夫している。		